

指定管理者総合評価シート

評価者	教育委員会指定管理者選定評価委員会
評価対象期間	平成19年4月1日～平成23年3月31日

1 基本情報

施設名	千葉市科学館	指定管理者	トータルメディア開発研究所・凸版印刷共同事業体
指定期間	平成19年10月20日～平成24年3月31日	所管課	教育委員会生涯学習部生涯学習振興課
指定管理事業の概要	①施設運営業務 ②施設維持管理業務 ③経営管理業務		

2 総合評価

(1) 過年度の管理運営業務に対する評価

評価項目	評価	評価の理由
1 市民の平等な利用の確保、施設の適正な管理	A	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケートの回答に特典をつけるなど、回収数の増加を図った。 ・利用者意見については、可能な限り、迅速かつ積極的に対応した。
(1) 関係法令の遵守(個人情報)	A	
(2) 関係法令の遵守(情報公開)	A	
(3) モニタリングの考え方	A	
(4) 市内産業の振興	A	
(5) 公正な利用受付	A	
2 市民サービスの向上	A	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者への誘導(主にプラネタリウム)や団体への対応については、利用者の安全を第一に考え、適切に行われてきた。 ・約250人のボランティアへの支援を積極的に行い、活動環境や参画機会の整備・拡充を行った。
(1) 利用者への支援	A	
(2) 利用料金	A	
3 施設の効用の発揮、施設管理能力	S	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる広報媒体の活用、広域的な印刷物の配布など、広報PR活動を積極的に行った。 ・美術館および郷土博物館との相互割引や連携企画に協力して、中心市街地の活性化を図った。 ・塗装も含めた展示装置の大幅な補修作業を行い、利用者が参加・体験しやすい環境を整備した。 ・職員が館内を毎日欠かさず点検したことにより、展示装置の不具合を極力抑えることに繋がった。 ・新規展示の設置や企画展の充実化、時節を意識したワークショップ・講座・講演会、プラネタリウムを含む天文普及活動など、魅力的な事業を多数展開し、初めての利用者やリピーター層の増加を図った。 ・教育アドバイザーが中心となり、学校団体への利用促進活動を積極的に行い、市内・市外を含む多くの学校が校外学習として利用した。 ・約250人のボランティアへの支援を積極的に行い、活動環境や参画機会の整備・拡充を行った。 ・関係機関・団体や日本科学未来館等との連携を強化し、千葉市科学都市戦略に基づき、科学フェスタを含む事業の充実化を図った。 ・特別投影では、星空を投影しながら、アロマの香りをたいたり、クラシック音楽の生演奏を行うなど、新たな利用者層の拡充を図った。 ・ミュージアムショップを直営で行い、事業と連携した商品を充実させ、施設の魅力向上に繋がった。
(1) 利用促進活動	S	
(2) 運営体制	A	
(3) 施設・備品の維持管理	A	
(4) 展示事業	S	
(5) 教育普及事業	S	
(6) プラネタリウム事業	S	
(7) ボランティア事業	S	
(8) その他事業	S	
(9) 自主事業	S	

4 管理経費の縮減	A	・外部委託を抑え、指定管理者が自前に対応し、費用の削減を積極的に行った。 ・事業拡充にあたり、(独)科学技術振興機構からの補助金等を活用した。
(1) 支出見積の妥当性	A	
(2) 収入計画の妥当性	A	

【評価の基準】

- S…事業計画を超える実績・成果が認められた。
A…概ね事業計画通りの実績・成果が認められた。
B…事業計画通りの実績・成果が認められず、改善を要する事項があった。

総合	A
----	---

(2) 次期指定管理者の選定に向けての意見

<ul style="list-style-type: none"> ・「管理経費の縮減」とそれ以外の「市民サービスの向上」について、それぞれどの程度市として重視するのか、基本的な考え方を示されたい。 ・選定に係る資料について、本委員会での検討期間を十分に確保できるよう努められたい。
--